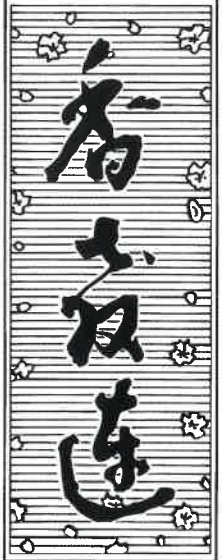


令和2年度 教文研教育ウェビナー開催!



香川県教職員連盟機関誌
発行所: 香川県教職員連盟
発行所: 北村 顕吾
〒760-0004
高松市西宝町2丁目6番40号
香川県教育会館602号
TEL (087) 835-2721
FAX (087) 835-2723

- 【聴取中学校で話題になった主な取組み】
- 定期考査・宿題の廃止
単元テスト・再テスト制
 - 固定担任制の廃止
全員担任制(チーム教員)
 - 服装・頭髪指導の廃止
生徒・保護者の経費差着
 - AI人工知能による数学指導
個別最適化・アクティブラーニング

十一月二十一日(土) 十三時五十分より、令和2年度教文研教育ウェビナーが開催された。新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、本年度はライブ配信によるセミナーを行った。香川県教育文化研究所からは北村顕吾理事長はじめ多くの先生方が聴講した。

講師として、工藤勇一氏(学校法人堀井学園 横浜創英中学・高校 校長)をお招きし、「学校教育を本質から問い直す」と題して、日本が抱える真の課題やその解決方法などについて詳しく講演いただいた。

まず、前任校の聴取中学校で取り組まれた「定期考査・宿題の廃止(単元テスト・再テスト制)」「固定担任制の廃止(全員担任制)」「服装・頭髪指導の廃止(生徒・保護者の経営参画)」「AI(人工知能)による数学指導(個別最適化・アクティブラーニング)」について話していただきました。次に、話題となった主な取り組みを踏まえて、日本が抱える真の課題として、「①誰もが当事者意識を失っている」「②手段が目的化している」ことについて詳しく話していただきました。これまでの学校教育は、「何を教えるか(教え方)」という教師の立場から見てきたのだが、それは学力の低下、教育の機会均等の格差を恐れ、結果として子どもたちの自律性・主体性の格差を生んでしまうことにつながっていると述べられました。本来の目的である「自律した児童生徒を育成する」ではなく、「基礎学力を身につけさせる」ようになってしまっている現状を問題視されていた。

また、非効率であるために、児童生徒を、教員を、学校を疲弊させていることや、タイムマネジメントの視点からも時代の変化についていけない現状が浮き彫りになっており、すでに既存の学びのシステムは限界にきていることを説明していただきました。

これからの学校教育は、「何を学んで(カリキュラム)」「どう学ぶか(学び方)」という学習者主体で進めていく必要があることを提言していただきました。「画一的な教育」から「多様な教育」へ、多様な子どもたちに個別最適化した教育を展開していくことで多様な人材を生む教育に転換することの重要性を述べられました。その一例として、ICTテクノロジーを活用していくことが必要であることもおっしゃっていた。

最後に、解決方法(当事者意識と対話)として「①まずは最上位目標を合意する」「②目標に戻って対話手段を決める」ことについて説明された。今日、各学校で掲げられている学校目標は、そもそも目標としてふさわしい目標なのかを見直す必要があると述べられました。ホンモノの最上位の目標「個人の目標」(児童生徒)・人が社会の中で変化に対応しながらよりよく生きていける「個の幸せ」「社会の目標」(学校)よりよい(持続可能な)社会をつくる「社会の幸せ」のために学校教育が展開されていることを、全て当事者として児童生徒や保護者、地域、教員が合意(理解)することが重要であることを述べられました。また、その目標を実現するためのあらゆる手段を対話を通して決定(自己決定)できるようにすることの必要性についても提言された。



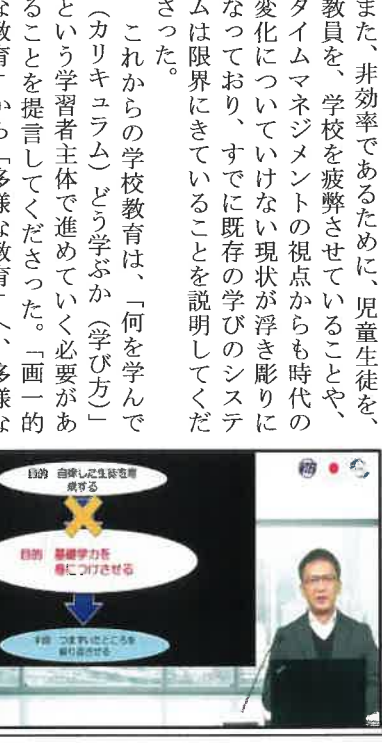
新しい時代における日本型学校教育の在り方や考え方を御示唆くださり、大変貴重なセミナーであった。

「子どもにひびかない教師の声」活発に授業が行われている教室とそうでない教室があります。原因は複雑だと思えますが、大きな違いの一つに「教師の視線」があります。沈んだ教室の教師は視線が下がっているのです。下を向いてボソボソと話しているのです。当然、教師の話す声は教室全体に届いていません。子どもたちは「私に話してくれない」「僕に伝えようとしてくれない」と感じて授業に参加しなくなっています。

〇伝える第一歩は視線を上げる
視線を上げて話すと、伝えようという気持ちも強く元気がよくなります。相手に意識されるからです。また、明るく元気のよい声になります。子どもたちに伝わる声に変わるのです。表情にも明るい笑顔が出てきます。そうなるまで教師と子どもの関係もよくなってきます。

〇子どもと聴こう
「よく聴いて理解しよう」という子どもが育ってきます。教師と子どもの間に、程よい緊張感が生まれ、いきいきとした授業に変わります。教師の視線は必ず上がっているのです。

〇一文一語、短文で話す
教師の話は分りにくいとよく言われます。「よく聴くので、一文が長くなりがちです。一文を長くは伝わりません。混乱するだけです。話を聴かれない子どもが育ってしまいます。『ダラダラ話』をやめたいという文には二つ以上の事柄を入れないということです。①結論を先に話す②事実と意見を区別して話す③まとまった話を多用することです。また、短文で話すという事は、句点を多用することが多いです。この間は、聴き手の子どもが沈黙の時間をとることができます。この間は、聴き手の子どもが沈黙の時間をとることができます。この間は、聴き手の子どもが沈黙の時間をとることができます。



毎月10日発行 定価1部50円(年間1,000円 送料とも)
会員の購読費は会費の中に含む

香教連は、結成四十六年を迎えた、子供中心の教育を目指し、健全なる批判力を持つ、県内最大の教職員団体です。

温故知新
謹んで新春のお慶びを申し上げます。また、平素より香川県教職員連盟のために、温かい御理解・御支援を賜り、厚く御礼を申し上げます。現在も、昨年から新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、日本のみならず世界中が苦しめられております。本日に一日も早い終息を切に願っております。

このような状況の中でも、子どもたちにより質の高い新しい時代に沿った教育を推進していくためには、慣例主義・既成概念にとらわれない、教育現場の勤務環境の改善・整備が不可欠です。本年も積極的に内閣や国会、国県市町の各教育関係機関等に要望をまいりませう。そのためには、先生方のさらなる御理解と御協力が必要です。昨年申しました「どうせ変わるから」「変わらなければならぬ」という意識改革を、少しずつでも実行していくことが重要です。新しい時代を担う子どもたちのために、会員となつて現場の声を届けてくださることで、先生方の思いや考えを要望に反映することが出来ます。今日の教育現場の改善を、各関係機関に伝えることが出来ます。要望があるからこそ、内閣や国会、国や県市町の各教育関係機関等が改善策を検討・協議し、制度改善や環境整備等につながっています。

本年もどうぞよろしくお願いたします。
さて今回は「視線を上げて短文で話す」です。